

# そこで兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によ って、教えられた言い伝えを守りなさい。 Ⅱテモテ2:15

## 2015(27)年 週 報

8月23日  
第4聖日  
第3418号

「愛の広さ、長さ、高さ、深さ」

### 聖 言

こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに  
住んでいてくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いている  
あなたがたが、すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれ  
ほどであるかを理解する力を持つようになり、エペソ3:17、18

### 礼拝の恵み 第二一章 第八節 礼拝の障害 (つづき) 第七節 形式主義

これは聖書的な単純さと御霊の自由との代わり  
に、ある種の外的形体や規則を、すこしも内的な靈  
性がないのに、墨守することを意味する。形式主義  
の表れをキリスト教界で眺めるのに、別に遠くまで  
行く必要はない。多くの場合では、「公衆礼拝」のた  
めに集会全体があらかじめ、開会から閉会まで、開  
会の賛美から閉会の祝禱まで、時計のように正確さ  
で規定されている。うたう賛美歌は全部、前もって  
定められている。ささげられる祈りは全部、書物を  
読んでささげられ、その文体はとうの昔に死んだ人  
が作ったものである。その上、多くの場合には、こ  
うした「礼拝奉仕」を司会する人が、全然また神の靈  
によって新たに生まれていない人であり、従って  
「罪過と罪とによって死んでいる」人である。新約聖  
書の中に与えられている模範と、なんとという相違で  
あろう。当時の信者の礼拝集会は、靈性と単純さと  
平等と自由と自発性とが特色であった。その結果  
は、礼拝は豊かであり、祝福も多かった。

(「礼拝」ギブス)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru\_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一五年八月一六日午前一〇時 礼拝 山本牧

「心のうちに住むキリスト」

「こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、」(エペソ三ノ一七、一八)

**祈り**

昨日は敗戦七十年の日でした。一日中、テレビでは繰り返して戦争の悲惨さを放映していました。もう二度と戦争を起こしてはならないと思いました。これがその日限りの決意となり、日常生活に戻ることにより、忘れないようにしてください。憎しみと貪欲、世界の悲惨に対して無関心の思いを取り除いてください。これから生きようとする子や孫らが幸福な人生を送れるように、神様を畏れ、神様の御言葉に聞き従うようにしてください。そのために私たちをキリストの証人に相応しい者としてください。そして、子や孫らに御言葉を語る力を与えてください。主イエス様のお名前によりお祈りします。

キリストがあなたがたの心のうちに住んでくださいますように」ということである。ここに一時期留まりに来るのではなく、私とともに留まり続けてくださる。」キリストの御臨在は単に力ではなく、知恵、励まし、また何よりも愛である。祈りはキリストが信仰によって住まわれ、そして愛によってかれらの歩みがキリストにおいて強く確立され、またかれらが更に深

く神を知ることが出来るように願っている。パウロは三つの祈りをひざをかがめて行う

第一は切に祈る(一四〜一五)

第二は強さと愛のために祈る(一六〜一八)

自分と自分にゆだねられたたましいが強められるために祈ることは必要である。私たちの肉体はどんなに努力しても弱くなり、衰えていく。霊は神によって常に新しくされ、新しい力に満たされる。だから内なる人が強められなければ、罪の誘惑に弱くなり、肉体も一層力を失う。内なる人が強く出来るのは神だけであり、聖霊である。内なる人が強められ、神の愛に満たされ、神の栄光だけを仰ぎ見よう。この罪の世には希望がなく、悲しみや苦しみ、不安があふれている。その中であつて、弱い人間が頼れる方は神しかいない。この世にあつても全能なる神が私たちの父であられ、力と愛の源であられることを信じ、その方とともにいることによる平安が心に満ちているならば、福音のことばとともに働いて、世の人々に神のすばらしさを強く証ししていける。日々みことばに向かい、祈りのうちに神の力によって強められ世に出て行き、心が弱く、くじけそうになつている人のために愛を施し、その人のために祈ろう。

人間は外なる人と内なる人の戦いです。現実の戦いは目に見えない心から始まります。昔サムソンと言う豪傑がいました。町の門を引き抜いて担いで山の頂上に運んだような人です。外なる人は強いのですが、内なる人が弱くなると外なる人も弱くなります。サムソンはデリラというペリシテの女性を愛し、毎、楽しく

暮らしていました。だいたい、神様を信じない人と交際することは間違いでした。しかも、生の伴侶とするならなおさらです。おまけにデリラは、ペリシテの王にサムソンを誘惑して力の秘密を聞き出したら、多額の金をもらえることになっていました。すなわち、デリラはサムソンを愛していませんでした。サムソンは力の秘密を教えて欲しいと泣きつきました。サムソンは最初は誤魔化していましたが、毎夜毎夜せめられたので誤魔化しきれず、力の秘密を打ち明けました。生まれて以来、髪の毛を切ってはいけないと命じられていることを告白したのです。早速、デリラはサムソンに酒を飲ませて、酔いが回ったところを見計らい、髪の毛を切り落としました。いつものようにペリシテが襲ってきたので、立ち上がって敵をやっつけようとしたのですが、もはやサムソンから力はなくなり、ペリシテにつかまり目を抉り取られました。神の命令を破った為、内なる人が弱くなり、外なる人も力を失いました。

(士師一六章)

第三の祈りは内住のキリストを祈り求める。

どうしたら内なる人が強くなるか。それはキリストが内なる人に住んでくださることです。それも一時的ではなく、永住的にお住みになり、調和するのです。内なる人は自分の中にあるとともに他人の中に内なる人があります。特に他人を見ると、内なる人よりも外なる人、すなわち、容姿、肩書き、利害関係を見まします。そうすると、どうしても内なる人が見えにくくなります。具体的に、好きな人と話す時も嫌いな人と話す時も、平常心でいられるというのが内なる人が強く

されることではないでしょうか。その源泉としてキリストと、聖霊が、心にお住みになられることが大切です。

二〇一五年八月一九日午後七時 祈禱会 山本牧師

「驚くべき神の教会⑥」

「それは木の祭壇であり、高さは三キュビト、長さは二キュビトで、その四隅もまた、台も側面も木でできていた。彼は私に、『これが主の前にある机だ。』と言った。」(エゼキエル四一ノ二二)

かつて故長田兄は、視覚障害以上に心の目の障害があったと証されていました。私たちは神様が見えないというのは、心の目の障害があるのです。レントゲンで間接的に体の内部を見るように、神殿をとおして神を見ます。至聖所は其中で神様の臨在の場所の最も近い場所です。出二五ノ二三

神殿の前の幕屋の聖所には燭台、パンの机、香壇があった。エゼキエルの神殿は至聖所の正面に机しかおいていなかった。しかも燭台がないので真っ暗であったが輝いていた。なぜか。それは燭台、パンの机、香壇も主イエスの予形である。至聖所の前にイエス様が我ら罪人のために父なる神に執り成しの祈りをささげられておられたのです。